好きが好きを呼んできた話

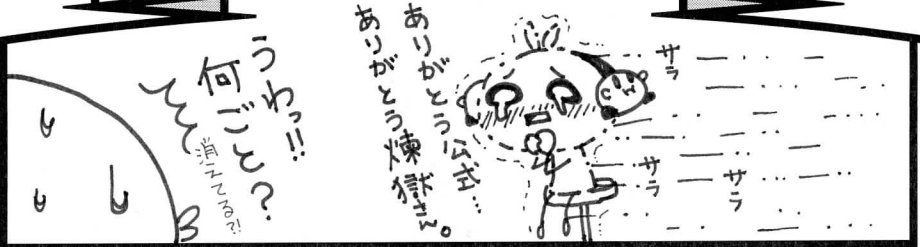
巷で大人気「鬼滅の刃」の映画パンフレット豪華版に「煉獄杏寿郎の使命」というドラマCDがついているそうで、

先日そのCDを聴いてみて原作コミックを読んだときに薄々感じていたある仮説が私の中で確定！その仮説とは…

煉獄兄弟は本が大好き
努力型文系光属性説

※重要!!

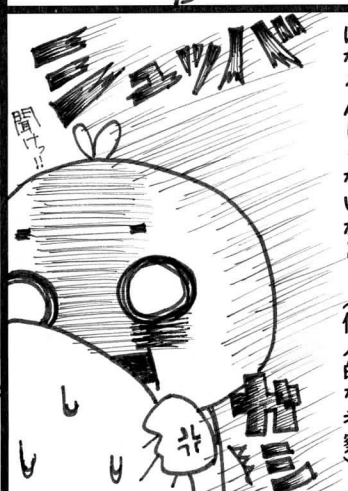
※個人的な感想です。



ここからは文学オタクの妄想とネタバレ回避のため大変意味が分からない内容になっています

ただ一つ気になる点が…。〇〇さんが「〇〇の本か！」っていうのだけど、日本で「〇〇」って言葉が一般的に使われだしたのは大正七年に創刊された鈴木三重吉主宰の童話・童謡雑誌『赤い鳥』以降と言われておりまして。それ以前は「おとぎ話」って言い方が主流だったわけ。

先日、天気予報士の森田正光氏が、原作で描かれている月の形や着ている服、当時の天気図等から、「映画の死闘は大正五年十一月十九日の未明ではないか」という天文学的観点からの面白い考察をしていて、大変興味深く読ませていただいたけれど、文学的観点から考えると、もうちょっと後になるんじゃないかと！（個人的な考察）



ちょっと待って！大正時代と言えば！

宮沢賢治の名作『注文の多い料理店』が大正十三年十二月に出版されているじゃないですか！

主に盛岡の書店で販売されていたけれど、東京の書店にも賢治自身が売り込みをして店頭に置いてもらったという事実を考えると……。

もしよ、もし…

〇〇さんが手に取って「〇〇の本か」って言って〇〇〇くんの〇〇〇にしたその〇〇が、『注文の多い料理店』だったとしたら？（個人的な妄想）